

## 1 【活動の趣旨】

子どもたちが地域と素敵な出会いができるように取り組んでいる。そのために学校と地域とが連携することで、子どもたちの学びをより豊かなものになると考えている。

また、長期休業を活用して、学校の取り組みを保護者や地域の方に紹介することを目的に、公開講座を開講している。本校ならではの活動を、実際に保護者や地域の方に体験していただくことで、開かれた学校づくり、信頼ある学校づくりに努めている。

## 2 【特徴的な活動内容】

### ○まちづくり協議会の事業への参加

本校では、1・2年生の時にお世話になった老人クラブの方や地域のお年寄りの方々への感謝の気持ちを育むために、4年生が、「学区敬老会」にも参加している。3年生は、地域の一員として交流を図るとともに、日頃の学習の成果の場として「地域で彩るコラボレーション」に参加している。



【老人クラブの方との苗植え】

### ○オープンスクール&地域公開講座

夏期休業期間中と冬期休業期間中に「オープンスクール」と題し、児童や本校卒業生、保護者、地域住民、未就学児に学校図書館を開放している。図書ボランティアや市立図書館の司書の方による読み聞かせを行ったり、学生ボランティアに手伝っていただき、休業期間中の課題に取り組ませたりしている。また、オープンスクールと並行しながら地域公開講座を実施し、大学や企業の協力のもと、漢字学習教室などにも取り組んでいる。



【地域公開講座読み聞かせ】

## 3 【実施に当たっての工夫】

- ・本校では、1年生から4年生まで、老人クラブの方々との関わりを持てるように、どの学年でも交流をしている。例えば、低学年では、「おもい作り」や「昔遊び」、中学年では「学区敬老会」や「ふれあいサロン」「地域で彩るコラボレーション」である。

## 4 【事業の成果】

- ・2年前より地域コーディネーターが配置されたことにより、様々な人材の紹介や地域の諸団体との橋渡しをしていただけた。
- ・地域には様々な技能を持った人がいることを知ったり、地域の伝統的なものに触れたりすることで地域の良さに気づく児童もいた。
- ・学校の施設を公開したり、児童と同じ内容の授業をしたりすることで、より小学校を身近に感じていただけた。

## 5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・打ち合わせの時間が多く必要になることがあり、その時間の確保をすることが課題となっている。学校・地域双方の良さを最大限に活かすためには、今後も地域コーディネーターの果たす役割が大きく、継続した配置が必要である。
- ・読み聞かせ、登下校や校外学習の見守りなど学習サポーターとしての人材が発掘はされているが、学習支援としてのボランティアについては認知が低く、また敷居も高い。子どもたちにとって身近な存在として地域を感じられるよう呼びかけを続けていく。